

# 川崎港見学会の記録



川崎の産業観光を支援する会 事務局 根岸雅明

## 川崎港見学会の記録

【概要】 昨年の川崎港見学会はコロナ感染予防のため人数制限の中で行われましたが、今年にはコロナ感染 5 類移行に伴いだんだん日常生活が戻ってきて、乗船人数を規制することなく通常通り乗ることができるようになりました。多くの皆様と共に川崎港を学ぶことができました。

川崎市港湾局の巡視船定員 50 人乗りのあおぞらで 30 人募集したところ 29 名の大勢の参加者をいただきました。小学校の先生方にもお忙しいところご参加いただきありがとうございますございました。

川崎の変貌を目の当たりにしました。都市計画道路の東扇島水江町線の延伸が水江町から京浜運河（700m）を横断して東扇島に至る臨港道路を現在建設中です。事業主体は国土交通省で行われています。過去に 3 回ほど支援する会では橋脚工事を見学しましたが、橋脚が完成し徐々に橋桁が架かってきました。完成まであと 5 から 6 年ほどかかる予定とのお話でした。これからかかる工事の運河部での橋げたの建設はぜひ見てみたいですね。完成された橋の京浜運河の真上で横浜方面や羽田方面の景色を眺めて、この橋の上から横浜の花火も眺められるだろうなと思いを馳せました。完成が楽しみです。

川崎航路は波も静かだったし、天気も良く、遠望も素晴らしかった。アクアラインの風の塔、千葉沖沿岸、羽田第 4 滑走路、東扇島での見上げるほどの大型自動車船が停泊して自動車を積んでいる姿も眺められました。最大 6,400 台もの自動車を積めるそうです。JXTG（日本石油のエネオスグループと東燃ゼネラルグループとの合併企業）の扇島東シーバースでは原油船が接岸して浮島の石油精製工場まで海底のパイプラインで原油が運ばれていくそうです。

川崎港見学会後、日本食肉流通センター内のミートアイランドでのサラメシ（働く人たちの昼飯の食堂）を各自お好みのメニューを注文していただき食事後、マリエンに移動して川崎港紹介のミニシアターを鑑賞しました。

今回は小学 6 年生の中谷君がマリエンでのガイドデビューをしました。マリエンのロビーに展示されているはく製のサメの川ジローの経緯やサメの生態や特徴などをお話していただきました。事前に資料などを読み込んで勉強されている姿にほほえましく思いました。

展望台でガイドをしていた だいた中谷君、大矢さん、水谷さん、加藤さんにはお疲れさまでした。そしてありがとうございました。会計の山部さんにもご協力いただきありがとうございました。これからも 3 大港（川崎港、横浜港、東京港）を継続して見学して学んでいきたいと思います。またぜひ皆さん参加してください。

川崎市の港湾局の関係者の皆様、マリエンの川崎港振興協会の皆様方のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。そして皆様のご参加ありがとうございました。次回も川崎の産業観光を大いに知って、学んで、楽しみましょう。

【日付】 2023年7月28日（金）8:00～14:00

【目的】 川崎港を見学して港の役割等を知り、学び、仲間と楽しむ。

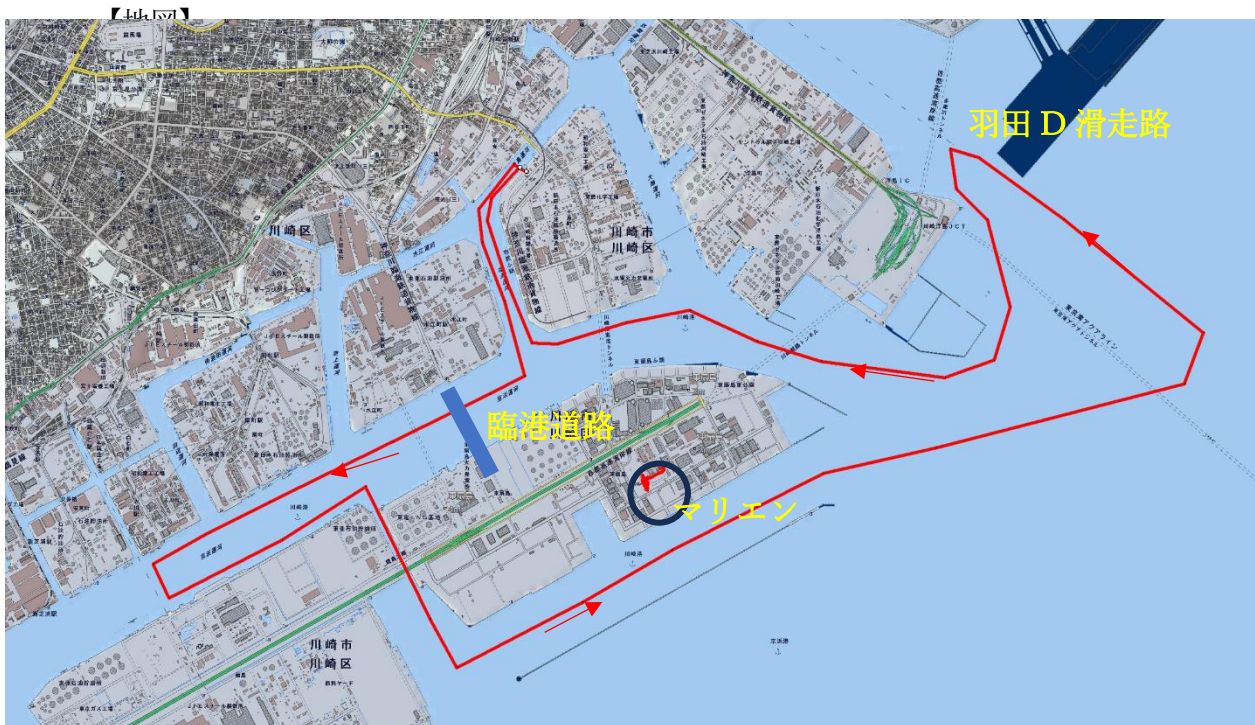
【参加者数】 29人（同伴の子供3人、市内の小学校の先生10人）

【その他】 連絡先 川崎市港湾局 石毛様 044-277-5533

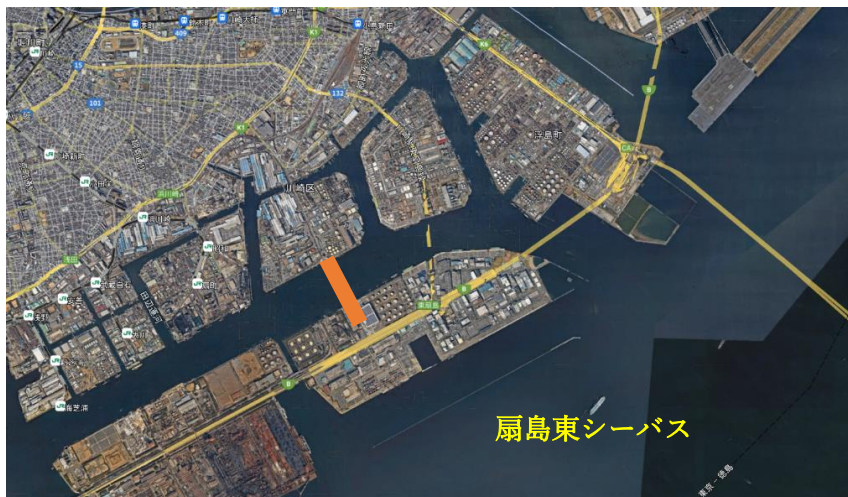
川崎港振興協会（マリエン） 044-287-6001

食事処ミートアイランド 044-266-8186

【コース概要】 8:00 集合→川崎駅東口 12 番バス乗り場 8:15→日本触媒前→客船ターミナル 9:30→川崎港周遊→客船ターミナル 11:00→日本触媒前→日本食肉センター→マリエンミニシアター鑑賞→マリエン展望→14:00 解散



赤線が航路ルート、ガーミンデータより。



扇島東シーバス



【写真】



川崎駅東口バス乗場 12 番。8 時 15 分出発。



日本触媒前下車して客船ターミナルへ移動と巡視船あおぞら（総トン数 126.7 トン、約 23 ノット）





川崎港をご案内していただきました港湾局の女性の方はマリエンでも案内をされていてミニシアターでもお世話になりました。



9時半の予定より早めの出航になりました。窓の向こうに見えるタンク群はエネオスの川崎事業所。手前は千鳥運河。この運河にホウジロサメが2005年10月に漂着して、それをはく製にしてマリエンに展示されています。胃の中からイルカの尾が見つかったそうです。



東亜石油の水江工場のフレッシュコーカー（重質油熱分解装置）。重油やアスファルトを分解して付加価値の高いガソリンや灯油、石油等に転換する装置で日本ではこの工場だけで、世界では7基しかないそうです。ガイドでは世界で5基と説明していましたが、大矢さんの訂正では7基が正解のようです。

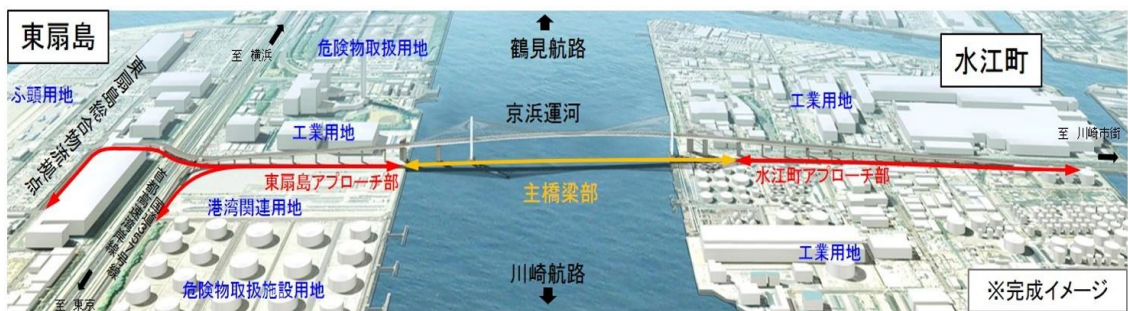


塩浜運河。建物は小野建川崎センター。かつてはここに日立造船があった場所。時代の移り変わりを感じる。





臨港道路…東扇島側の橋げたが建設されてきました。東扇島火力発電章から蒸気（煙）が見えないのは外気温が18°C以上あるからだそうです。



川崎港  
東扇島～水江町地区  
臨港道路



完成イメージ。国交省京浜港事務所ホームページより。

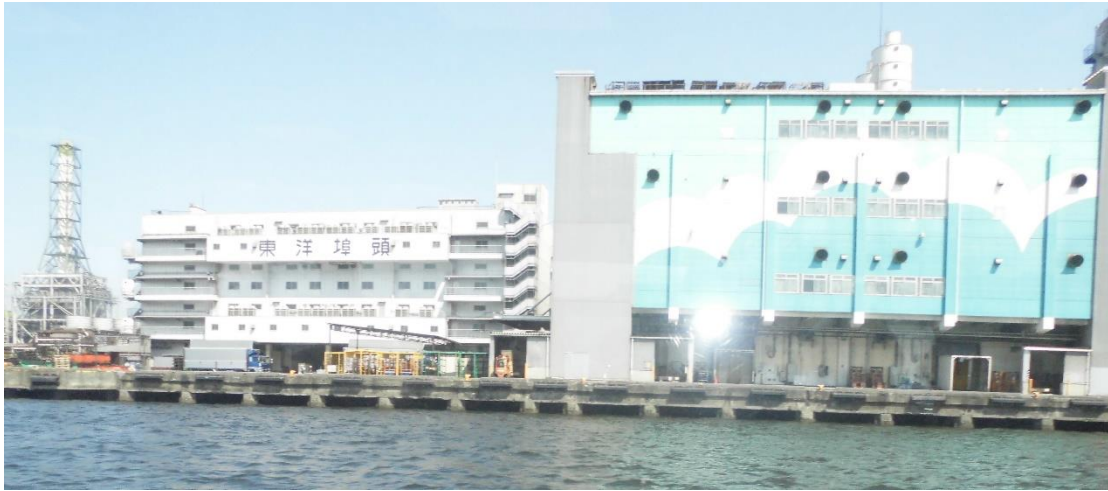


ゼロエミッション工業団地。コアレックス三栄東京工場。古紙などを原料としてトイレットペーパーなどを生産しています。皆さんと何度か見学に行きました。



京浜運河に大型船のLPGタンカーが横浜方から川崎方に向かっていました。  
どこへ向かうのでしょうか。





東洋埠頭。輸入品のバナナやキュイ、パイナップルなども青果物なども扱っています。



川崎天然ガス。総発電出力約 84.7 万 KW。工場夜景のスポットにもなっています。



三井埠頭



### 日清製粉鶴見工場

船は横浜市と川崎市の市境の境運河で折り返して扇島水路（幅70m）に向かう。



横浜方面を望む。ここでUターン。



扇島水路。幅 70m、長さ 610m



東京電力東扇島地下タンク。周囲が森に囲まれている。



東扇島火力発電所の配置図



地下タンクの頭の部分  
ホームページより参照





水路より首都高速道路湾岸線を望む



川崎港コンテナターミナル



大型自動車専用船



JXTG 扇島東シーバース（原油はこのシーバースから海底のパイプラインで浮島の石油精製工場に運ばれる）



アクアライン風の塔（トンネル内の換気の役割）右手に海ほたるも見えました。



ホームページより



飛行機と羽田D滑走路（多摩川の流れを阻害しないように杭の構造と埋め立てでできた滑走路。ハイブリッド工法とのこと。杭の本数約1170本、長さ約70m）

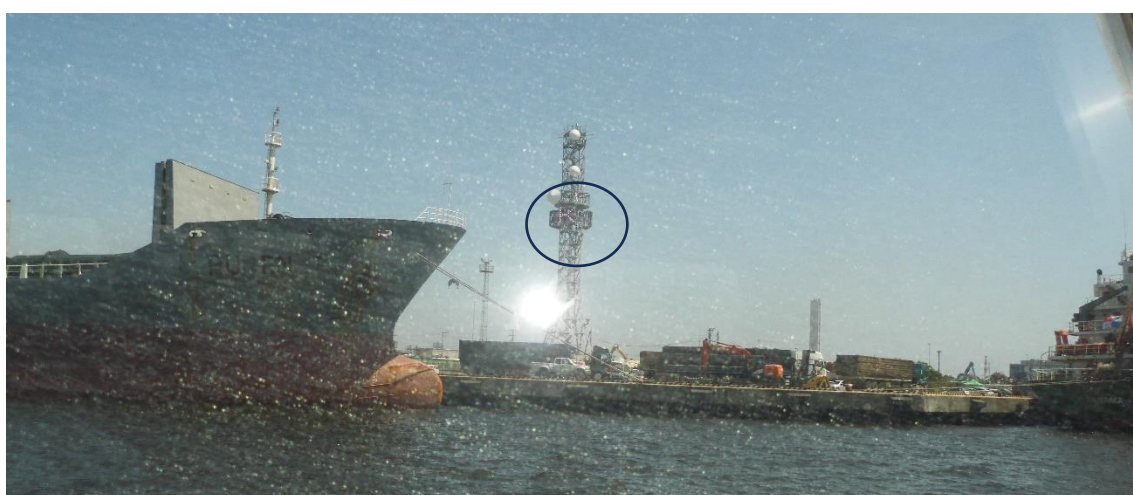




首都高速湾岸線浮島側換気塔と浮島処理センター



ジェラ川崎火力発電所。発電総出力 342 万 KW



管制信号 K のマークが点灯していました。右手の川崎航路入港は可との事らしい。  
総 1,000 トン以上の船舶に適用するとのこと。



お疲れさまでした。客船ターミナル待合室にてトイレ休憩と質疑応答後、日本食肉流通センターへ移動しました。待合室での質疑では水谷さんから川崎火力発電所で生成された蒸気を周辺のコンビナート 10 社に蒸気を供給しているパイプラインの説明がありました。CO<sub>2</sub>の削減効果は約 2.5 万トンだそうです。パイプラインが曲がっているのは熱による伸び縮みを吸収するための仕組みだそうです。待合室での質疑応答はとても有意義でした。



川崎発電所から周辺コンビナートに供給しているパイプライン。蒸気の共用で CO<sub>2</sub>の削減効果は約 2.5 万トン





ミニシアター  
川崎港を映像で学びました



ミートアイランドではステーキをいただきました。美味しかったです。



水谷君の川じろうの説明



ホオジロザメのかわじろー  
全長 4.85m





お疲れさまでした。べは参加者有志で駅前の居酒屋で反省会と懇親会でした。日頃の産業観光の活動の意見交換もあり大変盛り上がりました。このような会員同士の交換は有意義ですね。楽しかった。次回もよろしくお願いたします。

## 【アンケート】

### アンケートの感想から

- ・楽しかったし、おいしかったです！ 海底トンネル歩きもぜひしてみたいです。  
ありがとうございました！！ (麻生区、一般F)
- ・川崎港の成り立ちや、どんなことに使われているかなど、見聞きできてよかったです。  
(東京都、一般M)
- ・巡視船で回れたのがすごく楽しかったです！もっと回りたい！！ (神奈川県、一般、F)
- ・普段見られない所が見られて刺激を感じることができました。ありがとうございました。  
(東京都、一般、M)
- ・巡視船で案内までしてもらい川崎港の新たな一面を知れました。太陽光、風力、火力発電をしているとは知りませんでした。  
(東京都、一般F)
- ・普段見ることができない視点で見学できて新鮮でした。  
(多摩区、一般F)
  
- ・川崎港を毎年見学させて頂いているので、変化が見られてありがたい (多摩区、会員、M)
- ・あつさをおしえていただいた。(一般、麻生区、M)